

私たちの大切な

地域医療を守るために

〜今後の郡上市の医療をみんなで考えよう〜

昨年度1年間この広報誌で、

地域医療特集として、市内医療機関の先生方に医療の現状や課題に関して執筆いただきましたが、みなさんお読みいただき、どんな感想をお持ちになつたでしょうか？

郡上市の医療を取り巻く環境は、少子高齢化・人口減少、医療介護スタッフの不足など社会環境により大きく変化しつつあり、専門診療科の継続や経営等様々な課題を抱えています。そのような中で、地域医療が市民を支え、市民が地域医療を支える関係を、より一層大切にしていきたいと考えています。

地域医療を守り育てるため 郡上市が目指すもの

平成29年3月に策定した「第2期地域医療を守り育てる郡上市ビジョン」では、地域で安心して医療が受けられる環境の実現を目指して、

- ▼医師等、医療従事者の確保
- ▼市内医療機関の綿密な連携
- ▼地域包括ケアシステムの構築
- ▼へき地医療体制の維持

▼地域医療を考える市民活動の推進を掲げています。

医師確保の取り組み

市では、医師招へいのため、岐阜大学医学部や自治医科大学への要望活動をはじめ、将来、郡上の医療に貢献いただけるような人材を育成するため、市内医療機関において多くの研修医や医学生の受け入れを行っています。

さらに、へき地医療に関心を寄せる県内の高校生や医学生に対する研修会や、市内中学校生を対象とした医学部進学セミナーを開催しています。加えて、郡上市の医師として勤務しようとする人を対象とした修学資金貸付も行っています。

市内公立医療機関の連携

ビジョン策定と並行して、公立病院の将来の在り方を示す「新公立病院改革プラン」を策定しています。具体的な将来像として、市民病院は急性期から慢性期に至る専門医による病床機能への対応や、回復期に向けたりハビリテーションの質の向

上に取り組みます。国保白鳥病院は在宅医療や総合診療を中心とした機能へのシフトと、人口減少も考慮した病床数削減を含む検討および県北西部地域医療センターとして、へき地医療支援の継続的取り組みを掲げています。さらには、郡上市全体として民間医療機関も含めた連携体制をより一層推進すべきであると考えています。

地域包括ケアシステムの構築

様々な地域資源の連携のもと、住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすことができる仕組みを地域包括ケアシステムといいますが、このシステム構築に向けた役割についても、プランの中で掲げています。市民病院は急性期医療の中核的な役割を担いつつ、在宅医療や施設

介護の後方支援に努めること、一方、国保白鳥病院は、地域包括ケア病床を受け皿として、在宅医療へつなぐ役割を担うとともに、訪問診療体制の充実、民

地域包括ケアシステム



間事業者との連携による在宅医療の包括的提供、高齢者・認知症家族への支援を充実させることとしています。

へき地医療体制の維持

市内には、無医地区・準無医地区が存在し、こうした地域も含めへき地医療を支えることも重要な課題です。開始4年目を迎える国保白鳥病院を基幹病院とした、「県北部地域医療センター」は、郡上市、高山市(荘川)、白川村の2市1村の市域を超え、広域的にへき地医療を支えるとともに、医師確保はもとより、医療や介護予防、健康づくりなど市民ニーズに包括的に応える役割を担っています。

地域医療を考える市民活動

地域医療の現状や課題を市民・関係機関・行政が共有し、郡上市の地域医療のあるべき姿について、主体的に考える取り組みが住民主導で進められています。平成19年に始まった「郡上市の地域医療を考える市民フォーラム」では、地域医療を守り育てるのは医療従事者だけの努力ではなく、市民も役割を担うべきであり、そのためにすべき行動として次の3つの提言が示されました。

- ▼これまでの話し合いの内容を市全体に広げること
- ▼医療機関、医療従事者を大切にする
- ▼郡上市の健康づくりを進めること

こと

市民フォーラムから発展し、活動をより深めていこうと「地域医療を守るためのガヤガヤ会議」という有志の集まり(約20名)が発足し継続的に活動されています。昨年度は、地域版フォーラムを美並で開催し、幅広い年代の100人を超える参加者で盛り上がりました。



▲平成29年度地域医療フォーラム in 美並の様子

郡上市の地域医療がどうあるべきか、その将来像を描きながら、市民・医療機関・行政がそれぞれの役割を果たしつつ、一体となって取り組んでいくことが求められています。ぜひ今後の郡上市の医療をみなさんも共に考えていきましょう。